

生物生産学科

カリキュラム・マップ

1. 学士課程の卒業にあつては、以下の点に到達していることを方針とする。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	生物生産学とそれに関連する領域の幅広い基礎学力・知識を身につけ、問題解決のための柔軟な思考力を有していること。
観点(B)	生物生産学に関する専門領域を理解し、高度な専門的知識を有すること。
観点(C)	人類が直面する食料・農業・農村問題、持続的農業等の課題に対して、解決に向けての科学的な研究手法を身につけていること。
観点(D)	農林水産業および関連産業に高い関心と意欲をもち、高い倫理性をもってその発展に寄与しうる能力を有し、異なる文化の人々とも円滑にコミュニケーションができる能力を備えていること。

区分	授業科目	観点				
		A	B	C	D	
全学 共通 教育 科目	大学導入科目				○	
	自校教育			○		
	科学技術と社会		○			
	共生人文社会科学A	○				
	共生人文社会科学B	○				
	リテラシー科目				○	
	スポーツ健康科学科目				○	
	*日本語科目				○	
	*日本事情科目				○	
	TAT I 数学	○				
	TAT I 物理学	○				
	TAT I 化学	○				
	TAT I 生物学	○				
	TAT II 数学	○				
	TAT II 物理学	○				
	TAT II 化学	○				
	TAT II 生物学	○				
	TAT II 地学	○				
	学 科 共 通 科 目	生物生産学原論	●		○	
情報処理学			○			
生化学		●			○	
農業微生物学		●			○	
分析科学		●			○	
農産物製造学		●			○	
生物生産学英語入門		●			○	
English Listening and Reading for Biological production I		●			○	
English Listening and Reading for Biological production II		●			○	
生物統計学			○			
農業分野専攻実習			○			
生物生産学実験基礎			○			
アグリバイオ実験			○			
学外実習（農家）				○		
学外実習（研究所）				○		
卒業論文		○	●			
生 産 技 術 環 境 系 科 目		作物栽培学	○			
		土壌学	○			
		農業気象学	○			
	土壌物質循環・肥料科学	○				
	作物保護学	○				
	灌漑排水工学	●			○	
	農地工学	●			○	
	フィールド実験実習 I		○			
	フィールド実験実習 II		○			

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
植 物 生 産 系 科 目	植物生理学	●			○
	植物分子遺伝学	○			
	植物生態生理学	○			
	作物学	○			
	植物栄養学	○			
	園芸学 I	○			
	園芸学 II	○			
	植物育種学	○			
動 物 生 産 系 科 目	植物生態学	●			○
	畜産学総論	○			
	農業昆虫学 I	○			
	家畜形態・生理学	○			
	農業昆虫学 II	○			
	家畜飼養学	○			
	家畜繁殖学	○			
	家畜育種学	○			
	蚕糸学	○			
	昆虫利用学	○			
農 業 経 営 経 済 系 科 目	家畜衛生学	○			
	農業経済学	○			
	農業経営学	○			
	食料システム経済学	●			○
	農業市場学	○			
	国際農業開発論	●			○
	農業数量経済分析	○			
	農業資源経済学	●			○
	サステナブルツーリズム論			○	
	農業経営経済学総合演習		○		
新 領 域 科 目	農村社会調査実習			○	
	バイオマスエネルギー論	●			○
	遺伝子細胞工学	●			○
	生物生産学特別講義 I（環境系）		○		
	生物生産学特別講義 II（植物系）		○		
	生物生産学特別講義 III（動物系）		○		
	生物生産学特別講義 IV（経済系）		○		
	食料リスクアナリシス			○	
地域パートナーシップ論			○		
学 部 共 通 専 門 科 目	動物福祉論			○	
	学部共通専門科目	○			

*日本語科目、日本事情科目は留学生対象科目。
●と○がある場合は●は主たる関与であることを示す。

応用生物科学科

カリキュラム・マップ

1. 学士課程の卒業にあつては、以下の点に到達していることを方針とする。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	応用生物科学とそれに関連した領域の課題に取り組む基盤となる幅広い知識と教養を学び、柔軟な思考力を身につけていること。
観点(B)	生物の持つ生命現象や生物個体間相互作用と共存様式を解明し、人類の持続可能な発展に貢献するために、応用生物科学の基礎から先端にいたる専門領域およびそれに関連した科学を体系的に学習していること。
観点(C)	応用生物科学の分野において不可欠な、化学と生物学を基盤とした実験技術を学び、分子、細胞、個体から生物群集の活動、相互作用にいたる一連の生命現象と生物機能を理解するための分析力と考察力を身につけていること。
観点(D)	バイオサイエンス、バイオテクノロジー、食品、生命科学、植物保護等の研究によってそれらの発展に寄与するとともに、成果を発信するために必要なプレゼンテーション法と、異なる文化の人をはじめ様々な人々と交流するためのコミュニケーション法を学習し、高い倫理性を持って社会に貢献することが期待できること。

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
全学 共通 教育 科目	大学導入科目	○			
	自校教育	○			
	科学技術と社会	●			○
	共生人文社会科学A	○			
	共生人文社会科学B	○			
	リテラシー科目				○
	スポーツ健康科学科目	○			
	*日本語科目				○
	*日本事情科目				○
	TAT I 数学	○			
	TAT I 物理学	○			
	TAT I 化学	○			
	TAT I 生物学	○			
	TAT II 数学	○			
	TAT II 物理学 (実験科目を除く)	○			
	TAT II 化学 (実験科目を除く)	○			
	TAT II 生物学 (実験科目を除く)	○			
	TAT II 地学 (実験科目を除く)	○			
	TAT II 物理学実験	○			
	TAT II 化学実験			○	
TAT II 生物学実験			○		
TAT II 地学実験	○				
学 科 共 通 科 目	情報処理学		○		
	有機化学 I		○		
	生化学 I		○		
	分析化学 I		○		
	有機化学 II		○		
	生化学 II		○		
	分子生物学 I		○		
	植物保護学		○		
	発生生物学		○		
	昆虫生物学		○		
	分子細胞生物学		○		
	分析化学 II		○		
	有機化学 III		○		
	生化学 III		○		
	植物生理学		○		
	免疫生物学		○		
	分子生物学 II		○		
	食品化学 I		○		
	微生物生化学		○		
	天然物有機化学		○		

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
学 科 共 通 科 目	生物関連学		○		
	天敵微生物学		○		
	バイオロジカルコントロール		○		
	植物病理学		○		
	食品化学 II		○		
	栄養化学 I		○		
	遺伝子工学		○		
	神経生物学		○		
	応用微生物学		○		
	生理活性物質化学		○		
	科学英語		○		
	食品製造学		○		
	専門自由科目 (食品工学)		○		
	細胞工学		○		
	栄養化学 II		○		
	植物工学		○		
	代謝工学		○		
	蛋白学		○		
	有機合成化学		○		
	生体高分子利用学		○		
	農業化学		○		
	植物病原微生物学		○		
	昆虫生理学		○		
	食品衛生学		○		
	国際展開力科目 I		○		
	国際展開力科目 II		○		
	応用生物科学特別講義 I		○		
	応用生物科学特別講義 II		○		
	科学英語論文演習 I				○
	科学英語論文演習 II				○
	農場実習		○		
	応用生物科学共通実験 I			○	
	応用生物科学共通実験 II			○	
応用生物科学専門実験 I			○		
応用生物科学専門実験 II			○		
応用生物科学専門実験 III			○		
応用生物科学専門実験 IV			○		
応用生物科学専門実験 V			○		
応用生物科学専門実験 VI			○		
応用生物科学実習		○			
卒業論文		○	○	●	
学部共通専門科目	○				

●と○がある場合は●は主たる関与であることを示す。

*日本語科目、日本事情科目は留学生対象科目。

環境資源科学科

カリキュラム・マップ

1. 学士課程の卒業にあつては、以下の点に到達していることを方針とする。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	環境や資源問題を理解するために必要な自然科学の基礎知識を身につけていること。
観点(B)	人類が直面する食料・生命・資源・環境問題に関わる世界水準の自然科学研究を理解でき、科学的に思考する力を有していること。
観点(C)	環境と資源の科学に必要な基礎的技能・技術を習得していること。
観点(D)	環境資源問題に関わる幅広い見識をもち、異なる文化の人々ともコミュニケーションできる力を備えていること。

区分	授業科目	観点				
		A	B	C	D	
全 学 共 通 教 育 科 目	大学導入科目				○	
	自校教育		○			
	科学技術と社会			○		
	共生人文社会科学A	○				
	共生人文社会科学B	○				
	リテラシー科目				○	
	スポーツ健康科学科目				○	
	*日本語科目				○	
	*日本事情科目				○	
	TAT I 数学	○				
	TAT I 物理学	○				
	TAT I 化学	○				
	TAT I 生物学	○				
	TAT II 数学	○				
	TAT II 物理学	○				
	TAT II 化学	○				
	TAT II 生物学	○				
	TAT II 地学実験	○				
	学 科 基 礎 科 目	情報処理学			○	
		地球化学	○			
生態系管理学		○				
環境資源科学実習A				○		
環境分析化学		○				
環境計測学		○				
環境資源熱力学		○				
森林資源科学		○				
環境資源科学実習B				○		
物質生化学		○				
資源材料力学		○				
代謝生化学		○				
機器分析学I		○				
水溶液化学		○				
資源高分子物理学		○				
環境資源有機化学		○				
木質資源物理学		○				
樹木生態生理学		○				
微生物生理生態学		○				
森林実習				○		
機器分析学II		○				
環境情報解析学		○				
環境気候学		○				
環境統計解析学演習			○			

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
学 科 基 礎 科 目	環境資源科学実験I (物理学応用)			○	
	環境資源科学実験II (化学応用)			○	
	環境資源科学実験III (生物学応用)			○	
	環境資源科学実験IV (地学)			○	
学 科 専 門 科 目	住環境学	○	●		
	資源リサイクル学	○	●		
	地圏環境学	○	●		
	大気環境学	○	●		
	海洋環境学	○	●		
	大気化学	○	●		
	木質資源化学	○	●		
	陸水環境学	○	●		
	環境毒性学	○	●		
	資源高分子化学	○	●		
	植物組織形態制御学	○	●		
	エコマテリアル学	○	●		
	環境土壌学	○	●		
	環境汚染化学	○	●		
	環境微生物学	○	●		
	生態系生態学	○	●		
	生分解学	○	●		
	森林資源利用学	○	●		
	森林資源形成学	○	●		
	環境植物学	○	●		
	紙パルプ科学	○	●		
	住環境構造学	○	●		
	ライフサイクルアセスメント		○		
	資源分解・廃棄学	○	●		
	森林・林業論		○		
	環境分子生物学	○	●		
	環境アセスメント学		○		
	環境資源科学特別講義I	○	●		
	環境資源科学特別講義II	○	●		
	環境資源科学特別講義III	○	●		
	環境資源科学特別講義IV	○	●		
	環境資源科学特別講義V	○	●		
	環境資源科学特別講義VI	○	●		
環境活動指導法			●	○	
科学英語論文講読	○	○		○	
卒業論文	○	○	○	○	

●と○がある場合は●は主たる関与であることを示す。
*日本語科目、日本事情科目は留学生対象科目。

地域生態システム学科

カリキュラム・マップ

1. 学士課程の卒業にあつては、以下の点に到達していることを方針とする。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	広範囲に及ぶ生命・食料生産・環境に関わる課題に取り組むための幅広い基礎学力を身につけ、異なる文化の人々とも円滑にコミュニケーションができる能力を持っていること。
観点(B)	森林・農村・都会を連続した地域と捉え、農の営みや自然と人間活動の多様な関係を対象として、自然科学と人文社会科学の協働による地域管理・計画に関する知識を身につけ、食料・生命・資源・環境に関わる世界水準の自然科学・社会科学研究が理解できていること。
観点(C)	人類が直面する食料・生命・資源・環境問題等の課題に対して、科学的な解決方法を構想できていること。
観点(D)	農林水産業および食品・生命科学関連産業の意義と重要性を理解し、高い倫理性を持って、その発展に寄与することをめざした行動ができていること。

区分	授業科目	観点				
		A	B	C	D	
全学 共通 教育 科目	大学導入科目				○	
	自校教育			○		
	科学技術と社会		○			
	共生人文社会科学A	○				
	共生人文社会科学B	○				
	リテラシー科目				○	
	スポーツ健康科学科目				○	
	*日本語科目				○	
	*日本事情科目				○	
	TAT I 数学	○				
	TAT I 物理学	○				
	TAT I 化学	○				
	TAT I 生物学	○				
	TAT II 数学	○				
	TAT II 物理学	○				
	TAT II 化学	○				
	TAT II 生物学	○				
	TAT II 地学	○				
	学科 共通 科目	地域生態システム学 I	○			
		地域生態システム学 II	○			
地域生態システム学 III		○				
地域生態システム学実習 I		○				
地域生態システム学実習 II		○				
地域生態システム学セミナー		○				
地域生態システム学特別演習 I			○			
地域生態システム学特別演習 II				○		
地域生態システム学特別演習 III					○	
フィールド安全管理学			○			
情報処理学			○			
インターンシップ				○		
ECO-TOPインターンシップ I				○		
ECO-TOPインターンシップ II				○		
卒業論文		○	○	○	●	
パ ツ ケ ー ジ 科 目 ・ 推 奨 科 目		生物多様性保全学	○			
		水資源管理論	○			
	地域社会システム計画論	●	○	○		
	人と動物の関係論	●	○	○		
	測量学	●	○			
	植生管理学	●	○	○		
	森林生態学	●	○			
	水文学	●	○	○		
	土壌物理学	●	○			
	地域パートナーシップ論	●	○	○		

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
パ ツ ケ ー ジ 科 目 ・ 推 奨 科 目	サステナブルツーリズム論	●	○	○	○
	農業経済学	●	○		
	農の共生学	●	○		
	空間情報学	●	○		
	土壌生態管理学	●	○		
	森林計画学	●	○		
	山地保全学	●	○	○	
	森林生産システム学	●	○		○
	GISの基礎と演習	○	●		
	樹木学	●	○		
	応用力学	●	○		
	土質力学	●	○		
	水理学	●	○		
	農村地域計画学	●	○	○	
	農業機械学	●	○		
	エコマテリアル	●	○		
	環境哲学	●	○	○	
	環境文化史	●	○	○	
	比較心理学	●	○	○	
	環境公法	●	○	○	
	環境経済学	●	○	○	
	持続可能な開発のための教育(ESD)	●	○	○	
	農業経営学	●	○		
	動物生態学	●	○	○	
	農村社会論	●	○	○	
	健康アメニティ論	●	○	○	
	インタープリテーション技術	○	○	○	●
	造園学	●	○	○	
	動物環境生理学	●	○		
	リモートセンシング論	●	○		
	森林施設工学	●	○		
	砂防工学	●	○	○	
	森林立地学	●	○		
	農地工学	●	○		
	地盤工学	●	○		
	生物生産環境学 I	●	○		
	生物生産環境学 II	●	○		
	機械基礎工学	●	○		
	熱工学	●	○		
	構造解析学	●	○		
生態・環境情報工学	●	○	○		
環境教育学	●	○	○		
環境倫理学	●	○	○		

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
推薦科目	共生福祉論	●	○	○	
	比較行動学	●	○	○	
	地域環境社会学	●	○	○	
	国際協力論	●	○	○	
	農業市場学	●	○		
	野生動物保全技術論	●	○	○	
	景観生態学	●	○	○	
	植生学	●	○		
	野生動物保全学	●	○	○	
	環境生理生態学	●	○	○	
	森林施業論	●	○		
	森林政策学	●	○	○	○
	循環資源利用学概論	●	○		
	農産プロセス工学	●	○		
	灌漑排水工学	●	○		
	水利施設工学	●	○		
	土壌物質動態学	●	○		
	動物福祉論	●	○	○	
	共生社会思想	●	○	○	
	国際開発論	●	○	○	
地方自治論	●	○	○		
バイオマス利用論	●	○	○		
持続的森林管理論	●	○	○		
作物栽培学	●	○			
土地利用学	●	○			
森林保護学	●	○			
実験・実習科目	測量学実習	○	●		
	地域社会システム調査実習	○	●		
	森林計画学実習	○	●		
	空間情報学実習	○	●		
	山地測量学実習	○	●		
	植生管理学実習	○	●		
	育林学実習	○	●		
	山地保全・砂防計画学実習	○	●		
	樹木学実習	○	●		
	農業環境工学実験 I	○	●		
	農業環境工学実習	○	●		
	応用水理学	○	●		○
	農村地域計画学演習	○	●		○
	野生動物保全学実習	○	●		○
	比較行動学実験・実習	○	●		○
	森林保護・樹木医学実習	○	●		○
	森林土壌学実験・実習	○	●		○
	森林生産システム学実習	○	●		○
農業環境工学実験 II	○	●		○	
CAD設計演習	○	●		○	
学部共通専門科目	○				

●と○がある場合は●は主たる関与であることを示す。

*日本語科目、日本事情科目は留学生対象科目。

共同獣医学科

カリキュラム・マップ

1. 学士課程の卒業にあつては、以下の点に到達していることを方針とする。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	獣医師としての任務を遂行するため、高度な専門的知識のみならず、低学年次からの導入教育により論理性や倫理性を兼ね備えた高い行動規範を持つこと。
観点(B)	動物の健康・福祉、公衆衛生などに関する実践力を兼ね備えた、基礎的な知識・技能を持つこと。
観点(C)	生命現象の解明を基盤とする生命科学や応用開発等において、獣医学を基礎とした問題解決能力を持つこと。
観点(D)	地球規模での感染症や畜産物の安全確保などに対して貢献する、知識・技能を持つこと。

科目区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
全学共通教育科目	大学教育導入	○			
	スポーツ健康	○			
	外国語	○			
	人文社会科学	○			
	理数系基礎	○			
	外国語アドバンス	○			
	持続可能な環境・社会	○			
	理数系アドバンス	○			
	*日本語科目				○
	*日本事情科目				○
基礎獣医学科目群	獣医学概論	○			
	獣医倫理	○			
	獣医事法規			○	
	運動器・神経系解剖学		○		
	内臓・脈管系解剖学		○		
	解剖学実習		○		
	組織学		○		
	組織学実習		○		
	発生学		○		
	統合生理学		○		
	器官制御生理学		○		
	内分泌学		○		
	生理学実習		○		
	獣医遺伝育種学		○		
	動物行動学		○		
	実験動物学		○		
	実験動物学実習		○		
	基礎放射線学		○		
	獣医基礎生化学		○		
	獣医代謝生化学		○		
	生化学実習		○		
	基礎薬理学		○		
	統合薬理学		○		
薬理学実習		○			
病態獣医学科目群	微生物学総論		○		
	病原微生物学		○		
	微生物学実習		○		
	免疫学		○		
	原虫・原虫病学		○		
	蠕虫・蠕虫病・衛生動物学		○		
	寄生虫学実習		○		

科目区分	授業科目	観点				
		A	B	C	D	
基礎獣医学科目群	動物感染症学				○	
	家禽疾病学				○	
	魚病学				○	
	動物病理学総論		○			
	動物病理学各論A（主要臓器）		○			
	動物病理学各論B（他臓器・組織）		○			
	病理学実習		○			
	公衆衛生学総論				○	
	疫学				○	
	人獣共通感染症学				○	
	環境衛生学				○	
	公衆衛生学実習				○	
	毒性学				○	
	毒性学実習				○	
	動物衛生学				○	
	動物衛生学実習				○	
	野生動物学				○	
	食品衛生学				○	
	食品衛生学実習				○	
	公衆衛生実践実習				○	
	応用獣医学科目群	内科学総論		○		
		呼吸器病・循環器病学		○		
消化器病学			○			
外科学総論			○			
麻酔学・手術学			○			
軟部外科学			○			
小動物内科学実習・基礎編			○			
小動物内科学実習・応用編				○		
小動物外科学実習・基礎編			○			
小動物外科学実習・応用編				○		
内分生病・皮膚病学			○			
代謝病・中毒学			○			
血液免疫病学			○			
神経病・運動器病学			○			
泌尿器病・生殖器病学			○			
臨床病理学			○			
臨床薬理学			○			
臨床腫瘍学			○			
臨床栄養学			○			
画像診断学			○			
画像診断実習			○			
眼科学			○			
動物行動治療学			○			
総合参加型臨床実習Ⅰ			○			
総合参加型臨床実習Ⅱ			○			
総合参加型臨床実習Ⅲ			○			
総合参加型臨床実習Ⅳ			○			

専門教育科目

専門教育科目

実証獣医学科目群

科目区分		授業科目	観点			
			A	B	C	D
専門教育科目	実証獣医学科目群	繁殖機能制御学		○		
		臨床繁殖学		○		
		繁殖機能制御学実習		○		
		臨床繁殖学実習		○		
		産業動物臨床学 I		○		
		産業動物臨床学 II		○		
		馬臨床学		○		
		大動物臨床実習・基礎編		○		
		大動物臨床実習・応用編				○
		総合参加型臨床実習 V				○
	総合参加型臨床実習 VI				○	
	選択科目	インターンシップ				○
		海外実習				○
		人と動物関係学		○		
		動物品種論		○		
		食品安全管理学			○	
		動物園動物学				○
		国際感染症制御学				○
	動物病院経営学			○		
	専修科目	獣医学演習			○	
卒業研究				○		

*日本語科目、日本事情科目は留学生対象科目。